安房手本艶恋廓 前編上

へ18
2132
97

213
97

安名手本執心鄙巻之下

おなる 勘三郎 二人づ下馬の出合ハ裏茶店の世界

むこ入正面ハ おし入レ三尺の金て床 花活ハ ゆ入ハ
みくさとれ あくぎづいきてあり掛 ハ の金 ㊀
の筆ハ ちりそうけさこうせん さの糸ぐきれて
あり屋人ハ のびゆう風 あゆ〜ハ ちまぜる客の
いさぐふぐきちさぐまりの火だちのろうがきの

ふちぐくさくとまてくさでちうたけてありめん
とも おやまえんりゆうえ 圖 モしもえんでのめるあを
圖 ト いさとと ちいろとひはいとぐ ちまく
ちまとと えるかなぐきて 郡りり
つさ やうまもおとりやう 門用 うめていろさこうら
もちくうのと 勘 よ さ百も承知ぐよ又とれうぐ
ハ ちとうせきふ行うとそうて 圖 きうハちうとの
ちうちうぐ 西のおかみさんハ 浅ぜさんが 茶さんの
下ハ行ぐ ちうとちうぐ 祐工ぐ あとぐ ぜて きの

毒がいまらうヤ勘さんの仕きせるをおらーいのウ
ト吸つけ 勘 仕きせるゴロ〳〵のり 仕きせるゴロ〳〵のの七字ゴリ長唄ぐ
ぢきろん根三あらくね あらくぶんつまをと面 裏 ろさやアよーらーうめぐ
野ぐそをしてあるまをろ〳〵 勘 おきやゝぐれい吉東
りの踊りをして新道の改ゴロ〳〵ひぐーこら
江戸が鳴ーくらう 裏 いやよちんは改さんハ口ゴ
たつーめごのう あゝハ能ゴうこの舟をいやホ
国を細くとるヨ 勘 さるーしてあぐれトつ西ハ菩
提のこりの

紀ゴべろよ陸ろ
のまをなごー 裏 さァあくこをさほして砕ハ稼ェ
ーうホあぐれ 勘 なんぐ白魚ヨ生摺草小ぐち
山菱ろんぐ勘稼ろ鳴ゴ〳〵ひハ国ぐーの
裏店をこるゆうふこんな白魚ゴ勘でゆるぜ
仕さーーこぐきいてゆるの今日ごろの鮒ろ
小鯛のゆりゴくゆる山菱小刀ときの醤油々
きゆう 裏 おろさん一ッ 安房 あげきまゆう 裏
勘さんおい 安房 こりやアよゆ栗のもしヒサア

あのいなかさい由ーゑんとは　おぢぎ　こと　が　ぢく
稲ェ　おとるさん　ちいさる　ゑ　けあひごゑ　ゆうまーいのら
げいーやの　おあらを　ゆうまー　へ　トらひきて　扇風　をゑ　ゆ　あるる
ーいらふとらふこと　ゆうり　火入　ゆ　ゆ　ゆ

つれもゆげくらまるとうなんとうらいくべあるえ
ぢ一ちいあり此女を女ぢうふーてとうふぶんこのそ
ぐーのうゝ店よ小石川のぐんとちゝい名もあるべー

○松切の下ハアまくし。本義ゞ縮賜ハ
羽二重の黒生地合の石持よ五三の桐
三ツ弁ゞ一夜二立。但ー裏ハしんざ三りそ

十人のうちこ此きまゝせ羽織とちゝくし。亜ちゝふとちゝくしちゝぐゝ
ぢうりまるのりきまるのりきまい旅ぐゝをとりまるとうふさも
似さう。桃佐ゞぐんとうあ義をあなんどぶとりふりんぢのの
りゝをちゝくし羽をりりハあのそんのつひぎ。ー五十の上五ツ
ちりもぢるる亜コレ桃佐の黒ーゆうきうふハ
ぐーぐうふう

ちりも拙考ゞ敬ゞ所いとこ。附ゆ桃佐を跡
かゝゝ人ゆを人今日を早ぢゝての羽織の
表ゆうぢんうと栄ゝめりぐて三絵本いや
ゝやうゝくし表ゆどんハぢぐんれうを亜う。
たぐいまぐゝきうふちんぐゝゆ右左りゆなゝを
ぢーと。孫ゆ手ゆ亜うぐゝうまゝと。弓調法
ぐちゆぢぐりまゝとれゞ。祝どもうゆ伊いぐ入り
いゝ亜ゆゝ亜ゆ郵ゆ亜ゆぢゝ亜ゆうのとばて

のけ給へ能ごぎりはまとと朝夕それのみあんど
らまてなりませねあるこゝも考板さあゆも
付うんともよろけうれ目紙ゆされます　虫　考
あるゆさく　虫　こゝろのいがよく法とめ母と孫ゆ
目利もこうちやゞ孫うんと射ゆ本先生さう
かゝくせどと新を一つめげてくくちうの酒も一口
めへ口せろうゝ茶ごゆ病身といふことあへ歩ゆ
これゝゝ横へ登りさァおいでゞ　トひゝふまゝゆそ
お茶をとゝいと

りゝとも引ゝて　世年面の　虫　考　みるゝ
ゆ女ゞゝゝゆ男げゆゆゝちゝゆ　○　付虫　茶ゝゝ病身とゝゝふゝゝ
ゝゝゝのゆゝゆゝゆゝ夜昊のゝ紙ゝゝゝゝゝ茶ゝ
ゝゝゝゝゝ

もつてゆくの。そまつなお菓子ちん上
附ふたらうじろ酒はじめ、ろくるの具もとつて
ごきねらくよいごろうぐやのふうそこなどの駄と
かつぶくらひ目利のとまり モシ酒はじめ夜具
のとまるーわおとれて今日はめくぐどうく小ちうる
男ごぶらつくこ モシ酒中まはゆうきこーく茶紙
ちやちやそれからうねづこきまーわ別宅ーく茶
ぐふくき五郎八をまく屋ごといつてこんせても

附知さるふうさ。モシあくいふ小僧ふそしめく
かつこ女郎をわくふ拾くりのこゆうふそろて。
ふこうふの封目の口紅をありがこうがり。郭湯へ
行てもらねが女郎の嘗だろしてこあく十四
ぐ女とかくが百あもめつこ中うふ髪結床の鏡
拾ぐ。こちふこうが中うふ生でふ拾ぐこと
ちよあんぐ絵ェくふ祝午の狸ちんあ中うふ
らくんぐだろうねるのき トさまぐ酒中まがこと

いつそひとろふ法せまづおうづけをしてあるこをの
亜ちくんありてきけげせふらふくるそのなり ○こをのこのびやうぶの
内よきくなる法せまのたまりうの今の出入口きのやく人も
ちまもいくぶんこをとらいくぶんちぎれをらぐんともるすをあ
うりつきこをるまをあつきりらくえらづるを
うつけしおまらしろまりいぶんとも法式 法 これ工
夜具いるもまづこをせくくもれが女郎ゆもろん。
あんざいくうとおりんて出入口きのやく人もすさ
法ごい トたい新らくのたくさんとかくとかくと
ようかどふのうくるこれちくんらいさしたのまぶあこのりもお
ひとしかえし ○はたたおけやまちの湯よかくり二組を傳ハ
くんをのうくきをと笠仲の町へいづまぶたちやうくん大門より
出るふのせりふれちくるいさしたくせしとこをれゆくん

世新らのをとくあさ新人ちとしひさまぐゆやうの
ありもあれどもよせんざんかくくれどどうこをめと
たをやゆんこうのうげよちくくちあんの丈
おまをまうり動をへがちまぐくまをくきのを 表 つさ が
とくさんハ新じゆの百性ものれどもたのをしひト
みくふロをよせ
べちやくくくく 勘 お春切まらあるう
○夕ぐれのかくくと
かアくくくくくく
四ざん図のハ
笑 ハ新うきゆてまぐ色の○りのをさあうをゆちり
うぐをぶとん一まのの上ゆちくぶいこと紙をつくりぶると

ちらへゐる○はこまと紙の仰りだるとゆふ紙りぐのいせ
ゆてあぐをまた花のさきとぐふふぐてそれ女のまるざゐ
いくつてきれのうり外ふ
つけそこれをおくることあり 芸 小香やアリ〳〵さろき
の花ぐふ〜〳〵 続 いまりんてきまとめの紙
おいくんへりしゐの紙おいくんゐのね 花の弓 だ形
たゐくいひゐん 小香 ゐの紙ろちぐ紙さんきね
ゐまーうふ紙ちろ香ぐんぐ紙ばつぐまと紙一ッ
りんていきいーさうふ紙ワちぐ紙 花の弓 又ゆ紙
ゐをいふぷゐぐんすとと湯ふ対のものぐ

ゐるうゐてきや 小香 今婚我さんうた入りゐんしこ
花の弓 いんそまろ紙ヱ ヱヤおいくんのゐぐとこゐ
いんそかゐいふ〜いの紙ヱモミヱちぐ紙とこゐ
ぐういこ〜いせう紙 芸 ヨヲちと
 続 ありおいくんこうをちゐんゐん 芸 いんモ
ふぐいョ 中三まと 尾の山 中三ヱ〜まこ人 尾の山 モミイ
芸まきんろふいまゐ〜ぐちこまりいこ人 尾の山
いんをゐせうん〜こ 芸 ゐありがこうゐを 尾の山

時さんのたゝうぐあるぢんくんぷんをワうち
らもあんどらまんをあらふ事あんぐざーき
ろうとやぐくさいんすんくーこらさどきぐまうて
ざいまうせう あ前 さそもちうちのうみだうりうろう
ねるんをごろう稲エトニ人くもまがさーれろうの事を
たゞとををろひ 芸志 それを稲あの時いひなんをみるね
ふうりくさーヒ
きんるいぐかう事ちてむうらゆまうぷちょいと
いうて又ぢんゆまるさまぐくちるーもあゆ

つけても亦たろうが考うちがふくいと云うんくを
それうくう円へけェらのくーあるとそのきうめいさの
ゆうふ花の香さんと花紙さーらえくせあその
きまろうようにもとあーくあるとやのうくひふ
あのんでえんぎをきくくみかりイをたゞりさト
さぬぐうくきをうそたゞひふるくぐさぬぐいきありぐちるる
さしもあるきやの女達すぐかくんの事をうとやりのをきあい
まる 平 此平をうつとうくる寺寺角のくあうーあうあぬぐをを
寺平トいくうりぬ寺平い陸ゆまがかくえのとびの
りのうり殺いちんくるのをうりぬ陸とうふ字をぢやぐぐぬふ
あくる殺平あうきさんとあの茶こぢんのあかせさびあじ

ちまのゆうこせ二ッかゝ幸すぐるこのりゝ〻はなれることゞまの
ゞ半ぶ紙を四つをりにして又そのうゞをとゝーをりるるをる
ぐみを入るとかゝこのふうかゆきゝはうあうぐーしめねぐひを
かくゝゆぎうゝきるりゆあせをふをゆーをかをゆくゝをる

番や女 おいくゝんは彦うきたようゆくふッーゆあろ
ねーやァ法ぎさんのあろうひざゝまるとがおゝぐんふ
ぎきふあゝとづけをゆーゝはゝとゝふッーゆるうゝお連れ
ゆ法ーゝと 芸者 ゆるうり モシよくあるでなんゝゝと 平
エへゝるうちやァ平をゝとゝのぶどんぐゝれぐだざう
ゆゝとぐ。そのかうりゆやァちゆくなゝゝぐゝをゝぐ

おぐぜエさと 芸者 いんもたのりーさうぐられうぎんを
ゆさんかぐうあるんゝゝうをゆんぐられェゝて
おまんまものぐゝとりイせんざーゝたうゝとゆうの
ゆりなんを奉うにぐうで二タ七日堀の内さんへ法
ぐらをいゝーいあうり。氣の毒さんとおひゆぐどを
いゝーいあゝ 代百姓まゆりとふふあうりを百ぷんぐゝゝ
ゝうクをぐらうんゝるぐゝ人百姓ゆあゝゝを
ゝとぶ
るうり 平 ゆゆぐんぐうぐゝ おめくさんぐゝうをゆうにゝて
いゝとをあうんうゝ久ゝもゆく 芸者 どうなんゝゝェ

平

ろうんてこること。新兵衛のうらぐも
茶碗屋の治ごゑんろうさんといふ人ぐ。そこやア
あん徳利ぐ米あエついてちんせうをちぐ。ぱま
でも飯さたのめとん屋ろうてあろけぐ酒ろうて
ろを入れろう。薪ぐ炭ぐいとろちやア消し。喧
せんぐいをこるゆうろ鼻紙をめぐろてはうひ
国屋へかるまぐ徳ぐ食ろう者ゆうあや茶粥
紙青へ毒ぐとろうて三日の惣菜ぐ干ものと

一まつぐ。裏のぐとこあうら新牛房の茎さろと
ひろうて来て雑進日の平ふはうひ。そういふ丸あと
じけ紙ぐちんぐ。ゆうぐろうちちふろゆうなのん
ぐれへ風ろうみもきまエさ。ぬぐ。あんくさういふ
畑のちぐ。ろうん間ろうぶはさんぐ。あエさんの正
まきこうてぐろうとるかうとるとういふ。
ちのゆうふわろうんぐ。ちんぐをたぐ。ぐ
のろうろうてエろうてエ釈ぐ。獨子ぐろうてかめぐろ

さぞがあんさぞそぞろさまい中くふさて。紙ェ書人
がたらせいたゝ中のみどうい羽織を着く。おの
ゝ書ものでも紙ェ書ちまうぜェる道具を出い
ろ〳〵ゆうゆうとでまりごといろ〳〵。限く用の
性をもふべく親類御流御酒の上時日上ぐさ乃
頃度へつけのぢもふなく書り申ん〳〵と[図]うとく
ぞりェものつけのちせと中ふさぞかるーらそろ
めまんせう紙ェぼまさんゆだら〳〵〳〵ふつけのぢせま

なんなんをのふちとまきんーゆるうーて
まんちゆもお酒をかけうんとりゆ。花のうさえ
とおぞんの上ぞうとまらさーらとすのゆ。モシその
上ぐさ一日ふいうまきとくめーたゆも紙を上
うのあを[図]まゆさうろけも紙ェくみぐ〳〵百里
か〳〵の遠のぐりのと[図]それまゆふとふーゆく
さんのさたくさん[図]うろけも紙ェ日の十日もそのよま
男のぼぐかくうあと[図]さんどうまーとうきふぐー
ちぐぐくふくんゆまくこと紙を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうにせまうつぐーたぐ山のこりふそのうらうのるものみかをうをなりふるをとゆをんをゆをめをきりなどぜんーさまをぐをを形ーのをともありしなをどをちーを紙ふはりをせざををあをたちぎをりふあををうれねまをよををがうつみかををーんををを

かぶきしゃく

けふをとうむらちやうぞの女房いらつしやるあらうぢ野ぢうもうるいさうまでちんとなりてきゝあさりじがまく一どうるきゝどし

芸 どうぢーとおくんるんーいつをまきんのこうづ

さんーらとくかすーうなるんーと あぢ川 きゝぞ

ぜさんハ江戸をたつる目る附かすーうてるんく

とあゝ 尾の山 ゆゝぢどういふ下く行るんーこうう

和ゝ 紙の表 モシゝさうすーて猫ぐいたるんーこうゝ。

平 仏さ店の三度ぐはいくめゝより中ーこと 芸 モシゝ

その三度とゆふ先きまを元をこうゆうおぢやるん

じやアありませんうん 尾の山 これゝるんーまさん

のまハちんなかこの紙へかたるんーくもいのも

いきぢ和ゝ あぢ川 けふをぐはさんのかこぢこと

ありもしまんー 芸 又そんまこをいひなんーく

ようせなんをトまきぢるくまのそかやうあてくうかなき

ちやーぢとさし 和の あぢ川 尾の山 かもろ ぢん おいくん ゝ

つめ歯をきりく

あいさんエく。葉さんく。きたかのエ
モシエく〳〵 [葉] フウハア [平] すくとろちのそんざ
ちろちのりんざごうせんちゃくぶせきのしゃうの
ざく〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵 [前] いとさん。村里さん。揺本
さん。八幡さん。機さん。ちのぶさん。袖ーやァリ。あいイリ
廊下うら。門屋の音
ざくさくさくさくさくさくさくさく
○五段目 せちのう浪花ごえ
ちろちのあまやどり

定九郎。しのころ二十四五。これもいぜんの浪人まきがえ
かくまはれし者。なるしゞ十七八のところもきおいすて
今は仏ごろつき。ちゃうだいもまく。あぶらくよかいさぶりて人ぐら
ゆ。ひとく抜いろ。かぶ。ふまの
白あぶり女の髪りめ。ちゃぶ。袖ちのさくさんとやどまの
こえ。茶ぶり。雪駄の黒すり。ちいさきとそき。板
ちのまあぶりと。四つ。ちゃぶ。ちゃ。ちゃ。みさちの
いりぶ。切さんとしさきまぶ。ぶ。そそと。振ぶ。
どうぞとおりくべ。まもせのぶェ。おりろねおろこの
声。ごとゥ。ゆゥ。ろこの。女郎 [女] コウ 定さん [定] ヲイちく
しゃうあェゆくこのくあんぐできくこの二番いろもぜ

母 おくさまごけらんぎあるもなるヨどんざくれまろうあエ
定 おんう様エあやさんざ一ぷくのませんこと 母 已よ
のませるたばこハ様エよユウ定さんむろうれ煙草
かうてらんる 定 ムろ一ざやくよ 煙草 買 くきんさまよ
ざの一トさあ一さいちうゆぶぐちのあめ
ぐらくらく皆もやまるかける 定 きまのきろ
様エあめぐぜ りの 母 モシくとれハ定さんサア踏て
めりまくこ今夜ハ帰り。猿 帰 でエ。り一トらひ
まを 気 引あげふかる 定 つまろくー どうぎとせぐ

らのあくとのお馬もあそるまろくくんて
ぶれぞあくふ一ふ小あぐろうのりでエ星ぐ
でくぞ トらひまぐふまーのまねぐひをえてぞろう
トゆりありかりとーくくートくちんるいおのくハ
のとくまくくあげ。ところねことぐしいハあんを
 あまき 甘き まま 粉 ぐ くくくくくん。ぐくく 煙 あるがあぐぐ
ニーハ六十四九八九あるりりのこ
ぐきまあてはさとくん母ら月
大くくりのぐんぐくふてまくちくくくくく
はさとまてちそくくまりぜんぐぐぐくくくくん
らあエまくーい又降くくまきライくとんぐんその

筆へ入ることこん稲ェ 与 定九郎ことこの動きくとこたびく もとどのろ
おしゃあもくくくんのんざァよくむけくるるせこのト
らひるぐくく 定 動きくのつらぐおんとあぶは ろぐんどりせェ
ろくぶ
くせェぜ 与 ヲサ きあもちうみろらけろさを
さのョんァあるうれ稲ェせるくあぶくくらんど
くぶせェこくふて定九郎 あくんをおこと 定 とんぐんおらァあくる
おんぶとる きぐせ 与 ァくくおらぐもこも
きぐるりんざァぐ。ゆーぐむくよ真こん稲ェどやァ

んァ代ろさァへぶん例とるざァ 世話やの つるるの 若 モシく
トりひるぐくくる市きへぐきとりぐるト
うくくくぐあざーくるーひきざりこも 与 これやらあんと
きる。おらァ代年よるるくぶァ如ちゃくるるぶァくんることろ
どざりますせねゆるさんくんせェ。コレサそるさんくせェうぶ
ぐふところふ金さァあるところくーるるとりやァ
娘ぐくれと万金丹とあざり仮ざァるりーきるし
いきざけの駄賃死んでるきげふ如郎ふを買く
ゑんとェぐ聟どのくさーやェこと合ァ 定 ちーくくぶちを

さんぎんあれがのことみごろあがん様エ 丑 ハア
どうてよんて五雅(ごが)ハかるるどゝ勘さんのこんぎア
なヨまれるくふあがぐぐエハトゝ市さんが市ーとーたるが
定 コウ ありやァあれがあやぢ
のぐくまてこのりのよもひ
ごごのぢんとこけがあんて今夜(こんや)ろちよるまさ
がけよ揚代(あげだい)今ぐ様エハ正でのあやちをね様(さま)
あーてあこのあさあまをぐくあんとこるのごまう
知ち 若 あしとりあいでるまれがごいぐんこうーう

ごごりきこと(ごと)ぢんきよさああんごがこと出(ざ)ー
ぬせこう 定 コウ ぶさ川さんがいくの 若 あるこハ
たーこう外様(ぐまの)さんでいくーーーあるこ 定 ごよせ人も
なくーて代内(だいうち)へ二度もまるとこくるあり与市さんハぜんど
ここいるくこのちこのたろいびきあひるこの如くいぐる
外様 ヲヤ 定 さんちあエさんきちん様(ぢん)エをうんて
ここりなんくこの二こうぐ焼(やき)てあこよりんて迷(まよ)
こ世声(ごえ)ざの 定 こんざおいくんざぜちん様エ代
ここふりのこう 当こ 定 かんこちまんーかるこうの

ごんけの 定 おいごんまるーごの 外 こてよおいごん
とらふりのいちりませねョートらふとろへおさごるりの
そごごそぶさまからてうし
つぐらふ 川 出る 若 ホイごおんきよさるるひるーご
モシく 与 フウリウニヤくくを ぶいこぶウリ
ごくふ 若 ごらんきよさるく 与 あアリ 婆くや
脊戸の豆ヱ 雑ごわるぐヱるひあそぶぶくくくくく
若 ちいまるきちい 麻ごごぶ 定 酒と者が一斤く
ようそとぐ蕎麦を一斤ョ 外 そごるそぶよー

祝ヱ 定 うんふーようう 外 のう 豕川さんくくー
鱈をたぐ祝ヱのうトちり目で 家 見附の吉さん
うるぎ 若 たい南一ふいしきせうう 定 ごう
ちくたいぶサ 若 かーくきりまし さ 定
ちいういく ちいのうァうくさぜごこの 掃溜うぶ 拾ちく
まくこのごの 外 定 きんちいうそロがうるひのう
肘萩ヤァリぢまるてヱげきごのうるごるる

ぞうーと 秀 いまおてんどんがらくらきまーと
定 たごとの銭のくあんよ手宮がこれとのう 秀
いきとださんーあョ 定 銭ざるまつアこてゆある
トいひあぐーちきあぐーときんぐ 外 あうい鬼灯がもぐと
百十二りんぐりのぜゆをぐと
うーふ買ーくまやそのけらでよ 豌豆かりく
くんまてあエゆもまるぞよ 家 こんちゆかーて
るぐみをかんておくんーん 定 こんるまうと
てんきんるぐあとの髪結をらんて銭へるエる

ろどのとーとくぐーー 外 仏のまつぐらくらある
あてくーんまトふとまくうやくーくだのあのうまぎ
一ッきん徒利ざーきせまーとまぐとそる 定
おらーファまんゆぐ 外 かんをちゆありなんー 定
まぐひやぐおちらつけ鰻いらくう 家 さあるいらち
おあんまんーべちやくくと小徐とのあまりめーとそうごとく
らまりぐのくこんもなくうちくくひるぐくう 秀九
あんートくーあくーねゆあ
定カくうまぎを一おかれば 秀 ちありがとうぐぐいまと
ーくとーくらるたがきくくのどらいきとトらひるぐら
とゆせる 外 ぞうートあくくみきらとふくぐよらなぎこの

きまくるりのが庵もあるものゝ定さんがせん角
くんくんくんくんのごらくべやニかとくろと湿の
毒ごョトらられこんぐらろとゆびきごたて年 卦 あのの
つくくくとくるくんくートさまぐ年きとところへ又ゆわひたが脇
どくモシ定さんくあらびるんくくこ子 定 猫花さん
う一ッめひともらひてくこ子まァこくくまき稲ェなョト
定カくふがせーじんよひまでも 雷門 ふまるる
二人りのあらきうあーきゆもふまるもちまくふ 猫 らつて来ゆまと
ヨトまあらじをきてくるく
ゆとふて二人ふごるゆそ 卦 らけあらうまくふうるびの

あほひでぴそうくうとあるつて 承 あのまれゆまき
よゆがあくくもくくもちくふ食ェとらつくとことが
ろんふロくくまと稲ェよ。そとェまくとのふごれご
 兎 ゴくちでごぎらまうと 卦 ちやくくェまなな定
さんきくるあのまい栗樽と中ふらら附るこくへ
三分ぐまくョまぐ六米ごっき。ごろかあらく
奴ごのうさァうるぎくをくびや虫のくまくごョト
ゆひあごくトくーとくそれが
くるびふくくんきのかほとえる 定 年くくろ稲ェうおゆ麦

ぐ風をつうあくさせうふ人の影だろうと思うことと
卯 又ゑる思ふいふョトひざと つまる 定 こりゃァちりひ
きんことをあやァグるこのあまあ 卯 やらう
あェトあらくくくくくちぐるふ ちとふ目をさまくくくくくふ 与市郎 ウラリ 酔くく
あやたまりげやところァあんさたーうは 如郎 盃
ごァなまごよんてゐるひしてちんさーものかわが
いろうもあェやさァ 定 あらぎんさァ 春稲ェ
トどんぎりふつぎ
又よろせる 与 ちんるァでろうふ 如でのんごァ

ハァ名そどんの孫へ 清 後 おが二なん座へいろ
とァ附ぎりだ 二なんざとハあるるるくくくくくふ 二度ごろくくくくくふ なんで 者ァ
くませェ 定 サァ 麺 与 りっとくませェ ちさ
よりげェよらあェハのぱまっとられせェ 順 題 ぐの
あちべェあんまくうまくくくどリヤ一っもどるべェ
うトたちあぐり よりまぐら 「志ょりつまァのさァェごんぢよの
おちよけのことごてゆやサァェ 稲子そごくぐ
ヤァョウドッコイくくちるすのくくあァなん

ぞろ眼がまわるくるくるちちゃァ虫がくつついて
天下のうらくとるべあァりこれじゃァ死べエハ
とゆくだん形寺の形堂さゆぼんぐんせエナ
嬰ゝたい縁エうさいつゝみァ腹腰ァ押てくんせエる
笑へゝ新商の中れ抜手を咎ゝくさァ上エ
うるぎをうち咎ゝこへァゝくつぐァ卜 卜ゝ市
抜ぐゝふうるぎのくひあわせてたきょうゝむ
うゝゝまくゝまてきうつけ紫風をりちきうりのませう げるゝふ
かゝくひ菓ぐ南を菓郎さゆたとけさゝくゝ

下さりはゝあァ引らんヲ引せつ縁エこりる
たァあんさるらんぐさぐんぐんさァ猫ぐゝりゝ
獲ァ虫めぐゝいゝくゝ菓めんゝんゝてゝるゝふ病を
ぐゝくゝとたゝぐゝとゝまゝくゝ治ととうや豊国の菓力うて
あひゝこのぶこ川せんゝゝゝくゝ鼻をあゝふ
ゝんぐぐゝうゝ腰ぐゝぐるべエうゝて後家へゝぎ
てエぐあゝ腰さゝんぐ今夜の女郎さま嫁とも
むとあとも忘ひまゝと一生の死ぎゝへぐァとれも
あんさる縁とゝりひあきゝゝめ業ゝゆァさゝんと

くぐせェ 永 ヲヤだろ〜ぶ〜いあれェるん〜小宮
そのやを生〜なぐ〜ふ大便をたるん〜さよ 乎
コレサそんるァきそるゞぐるめェちんさ〜も手が
よんてそぐ〜やァひりっそそるりんざそ
せんゝ孫エびちゝゝゝ 定 いめエまゝいどんぐれ
ざ 与市えんあげそりぐ〜 若 ちゝへさぐふけ座紙
そりまゝせう永川さんちん夜へそんのいろ男で
おゝゝゝせぐ 永 喜八どんきざぐよりヲ 若 定

さんめちゝふエ 定 まゝそふ酒が解ゝゝゼトいい
孫右衛門 まゝざめるなりぐてエゼ座ぐ春なるそム
トいいまゝそまゝそ行燈 ろり床ゝ八ろんの灯ぐあんどんそ
あゝゝゝせあエ蚊帳ぐゞぜ 孫右衛門 七ッ
でぐゞいまゝゝく 蛇の如く ぐなゝゝも孔ざよ。呑山
さん八そ釜さんあゝゝのさんいろでもづるい
のう 外 定 さん射孔よゝゝ孫ぐよあるョ
定 尻でも毒ぶりや 所 きんいの 定 色ぐ

五人ゝ明ぐるまでらゝれ待くがきいてあきれ
らア四 とろやきごときごのうトかやをいでゝれ
をゝまゝちゝ
ゝるゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ帝下ゝ
ゝかあひ男がくる牧ゝ志まる
志あゝゝゝごきゞそらどける
うゝ草履の音
ゝゝゝゝゝ